

ディスカバー農山漁村の宝有識者懇談会概要

1. 日 時：平成 28 年 10 月 17 日（月）17：15～17：40
2. 場 所：総理官邸 3 階南会議室
3. 出席者：菅内閣官房長官、山本農林水産大臣、山本内閣府特命担当大臣（地方創生担当）、古谷内閣官房副長官補、新川内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）、佐藤農村振興局長、
林座長、あん委員、今村委員、織作委員、田中委員、三國委員、
向笠委員、横石委員（欠席：東谷委員、永島委員）

4. 概 要：

○ 林座長から開会挨拶

- ・地方の特色のある農林水産物、豊かな自然、文化など地方の個性を上手に活かした優良事例を発掘する「ディスカバー農山漁村の宝」は、他の地域の潜在能力を引き出すきっかけを提供するものであり、非常に有意義な取組である。
- ・今回は大幅に増加した昨年を上回る 769 件の応募があり、盛り上がりを感じている。応募内容を見ても熱心かつユニークな取組がなされており、地方の活力を感じており、本日は、選定地区の決定、グランプリ等の選定方法等について、活発に意見交換を行ってまいりたい。

（佐藤農村振興局長から、資料に基づき、選定地区並びにグランプリ及び特別賞の選定方法等について説明。その後、委員からいただいた主な御意見は以下のとおり。）

- ・グローバル化が進む反面、高齢化や過疎化も進む中で、次世代を担う若者の参加する活動が非常に充実している。外国との交流や日本の農林水産物を海外に輸出していく「攻める農業」が増えている。
- ・地域ならではの宝の発掘をうまく引き出しており、グランプリ候補にも多様な価値観がそろっていると感じた。せっかくお墨付きが受けられるのだからもっとモデル地域を有名にしたい。そして地方のスターを創り出したい。
- ・ビッグビジネスに繋がるような大規模政策は必要だが、日本の農業の文化、誇りを伝え育んでいくことを応援していきたい。今回、アートと農業を結びつけた取組をしている団体などもあり、非常に面白いと感じた。
- ・今回のポイントは、地域の魅力や強みを見つけた発想のすばらしさと、生産性と将来への広がりがあったというところ。より多くの方の目に触れて、知られることで、さらに磨きがかかるということが「ディスカバー農山漁村の宝」の趣旨であり、これからも盛り上げていきたい。
- ・縁のある地域からの応募数が多く、嬉しく感じている。ミルクとかスタンダード

なものでも、国内外に発信していくことで新しい試みとなっている。

- ・この受賞を契機に目覚ましく張り切って活動しているところは、核となるカリスマ的なリーダーがいることが多い。今回の選考にあたり、斬新な切り口や新たな試みに注目すると同時に、情報発信を担い、地域を牽引していただくだけのパワーを持つ人材がいるかどうかを読み取る努力をした。

- ・多くの申し込みがあったことが本当に良かった。外から人が来ることによって少しずつ変わり、これが非常に大きな流れとなって、今までの組織や活動に良い波状効果を呼んでいる。こういう表彰をしっかりと応援していくことが大事。

- ・応募資料の写真がすごく明るく良いものが多くなっている。やはり良い写真からは訴えようとしていることが良く伝わる。今回は769件、昨年よりも100近く上回る応募があり、内容が自主的に深まってきていると感じる。

(菅官房長官)

- ・インバウンドの増加により、ゴールデンルートだけでなく、日本の素晴らしい地方にも足を運んでいただけるようになってきた。「農山漁村の宝」にさらに弾みがつく可能性がある。

(山本農林水産大臣)

- ・人口3,500人のまちへ行った際、診療所にお年寄りが集まっていた朝の光景が、道の駅で自分で作った野菜を販売することで、いつの間にか診療所には1人もいなくなってしまうと教えてもらった。それこそが田舎の力であり、そういうきっかけを委員の皆さまに創っていただいたことに心から感謝。

(山本内閣府特命担当大臣(地方創生担当))

- ・素晴らしい取組を全国に情報発信することで、地域に元気になってもらえればと思っている。特に高齢者や障害者の活躍や、外国の方々との交流といった優良事例を横展開させていけば地方創生につながると思う。

○閉会挨拶

(菅官房長官)

- ・安倍政権においては、農業の成長産業化を進め、農山漁村の所得向上を図ることは、「成長戦略」と「地方創生」の重要な柱の一つと位置付けているところ。

- ・本日、選定した30地区は、いずれも、地域の特色を活かした創意工夫あふれる、魅力的な取組であり、インバウンド、輸出、さらには農家民泊などでもめざましい成果を上げている。

- ・具体的には、フランスに特産のゆずを輸出し、輸出量が6倍にもなった地区、海外から年間2千人もの農家民泊を受け入れている地区など、まさに地方創生の先駆者であると確信している。

- ・今後は、最優秀賞と特別賞を選定し、11月下旬頃に官邸で開催予定の「交流会」で決定し発表する。

- ・さらに本年は、より広く国民の皆様「農山漁村の宝」を知っていただき、今回選定された地区の魅力、食、味に触れていただけるよう、新たな交流イベントとして選定地区による即売会を開催。
- ・今回選定された全国各地の魅力的な取組について、積極的な横展開を行い、農業の成長産業化と魅力的な地域づくりに大きな影響やインパクトを与えることを期待。

(山本農林水産大臣)

- ・「ディスカバー農山漁村の宝」の選定は今回で3回目となり、応募件数は、第1回 251件、第2回 683件から、今回は更に上回る 769件へと増加。
- ・今回、選定された30地区の中には、過去2回の落選を経て応募回数を重ねる中で取組をブラッシュアップし、ついに今回選定された地区もあるなど、「ディスカバー農山漁村の宝」は地域の取組を高める機会となっていると考えている。
- ・有識者懇談会委員の皆さま方やマスコミの皆さまには、第1回選定の23地区、第2回選定の27地区の合計50地区に、今回選定の30地区を加えた合計80地区の取組について情報発信をしていただき、更に全国の皆様「農山漁村の宝」を知っていただき、そして訪れていただくなど、この取組を盛り上げていただければと思う。

(山本内閣府特命担当大臣(地方創生担当))

- ・「ディスカバー農山漁村の宝」は、農林水産省と内閣官房が連携し、地域の人々の熱意溢れる取組の成果を表彰することは、大変意義あるものと認識。
- ・表彰された優良事例を全国に情報発信し、地域が活性化する好循環を拡大させていくことが重要であり、これらの取組は、まさに地方創生の礎となるもの。
- ・特に、斬新な発想に基づいた6次産業化の推進や、女性、高齢者や障害者の活躍が地域のその活動の大きな原動力となっている取組は重要であり、これら優良事例を全国に横展開することで、地域の活性化につながるものと考えている。
- ・本日は、新たな優良事例として30地区が選定され、これらの取組が地方創生の一層の推進につながることを心から祈念する。

○結果及び今後の予定

- ・事務局提案のとおり、選定地区並びにグランプリ及び特別賞の選定方法等について了承された。
- ・11月下旬頃開催予定の第3回有識者懇談会でグランプリ及び特別賞を決定するほか、交流会において、グランプリ及び特別賞の発表と交流を実施。
- ・新たな取組として、12月上旬に選定地区による即売会(マルシェ)を開催。

(以上)